

5 - 14 相模トラフ中部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Central Part of Sagami Trough

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

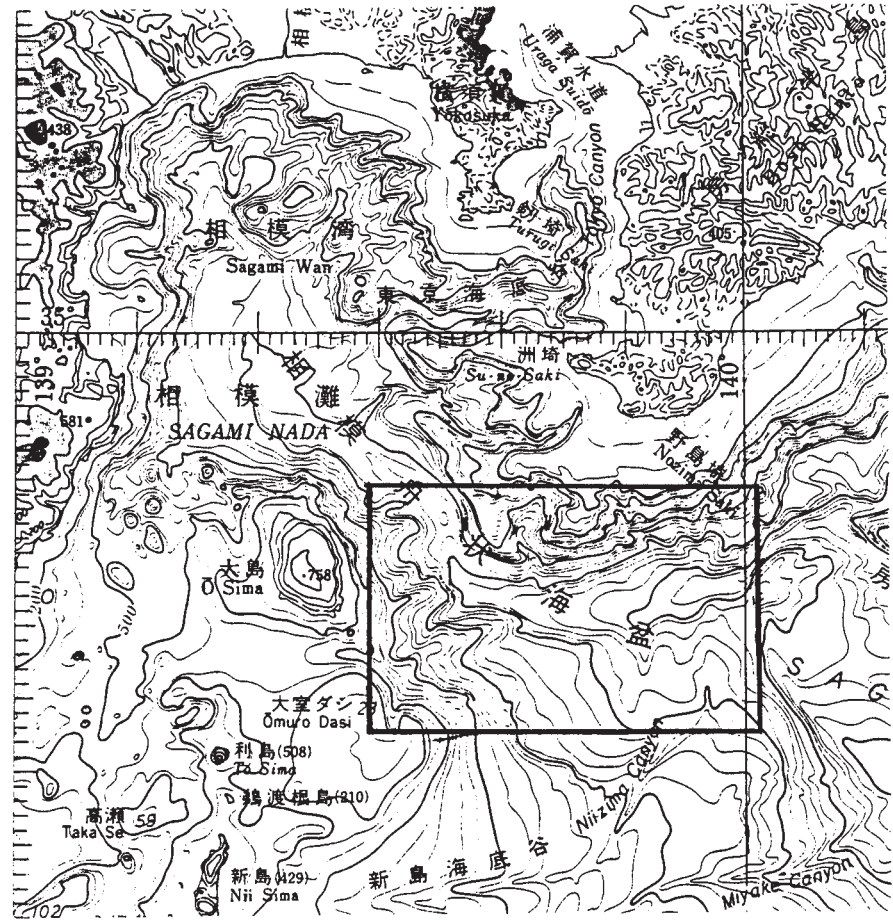
昭和58年4～5月、測量船「昭洋」で実施した「相模・南海トラフ海底活構造調査」によって明らかとなった房総半島南方沖の相模トラフの海底地形・地質構造について報告する（第1、2図）。

(1) この海域での相模トラフ底は幅3～5kmで、水深1800～2700mで東方に深くなっている。トラフの北側（房総半島側）斜面は急斜面で、相模トラフ底に続く海底谷がいくつか認められる。

(2) トラフの南側斜面は、伊豆大島に近い西部と新島海底谷のある東部とで異なる地形を示す。西部は起伏の大きい急斜面であるのに対し、東部は平滑な緩斜面である。音波探査記録には、この緩斜面下に北東に傾く厚い堆積層が認められる。（第3図）緩斜面とトラフの境界には、250～400mの比高の急崖があり、注目される。

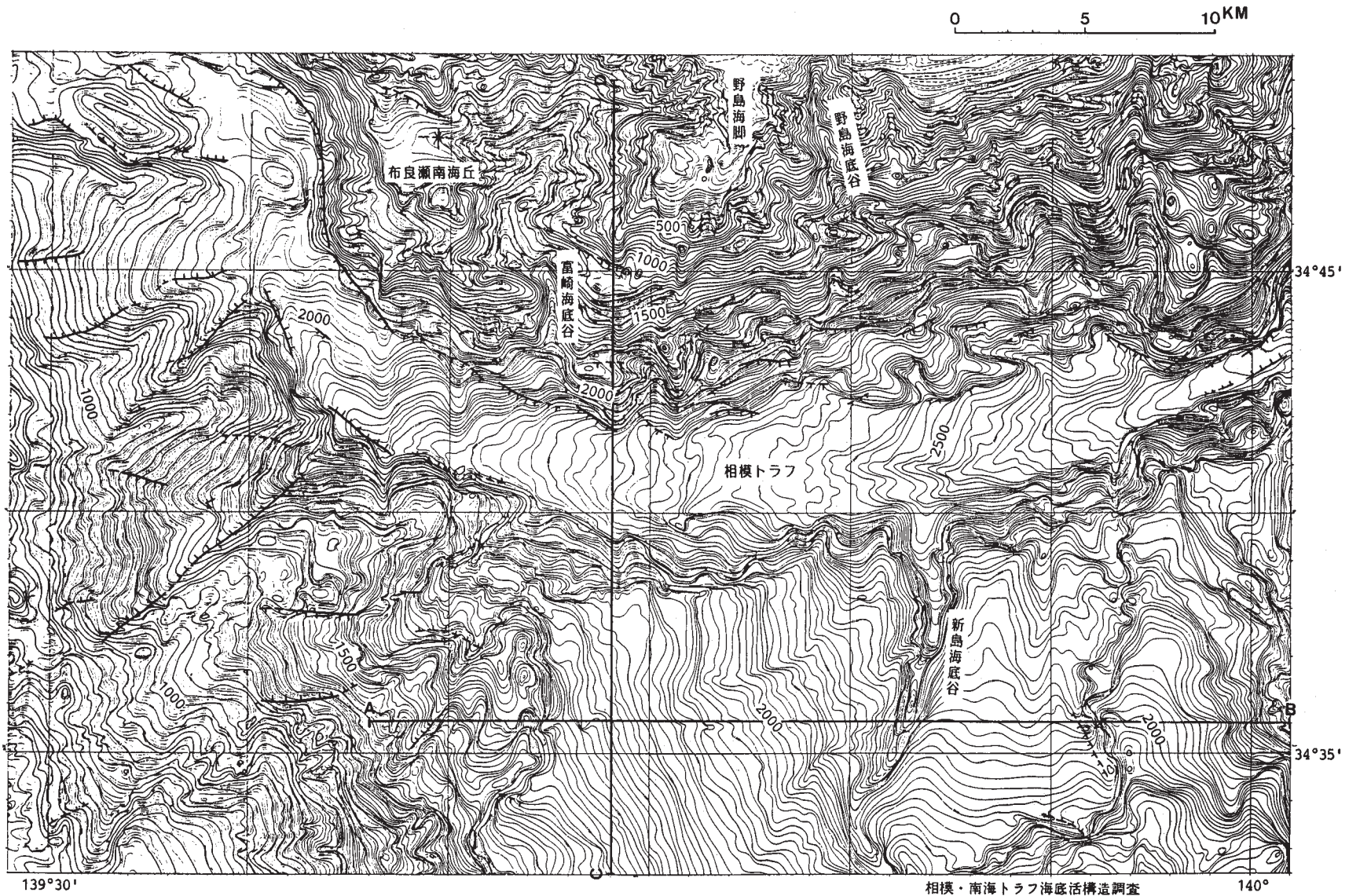
(3) 新島海底谷はトラフに続く顕著なV字谷で、緩斜面下の厚い堆積層を下刻している。

(4) この海域の断層分布をみると、トラフ底の北縁及び北側斜面下部にトラフとほぼ平行する南落ちの断層が認められ、また、南側斜面では、その西部急斜面域でトラフと直交又は斜交する方向の断層がいくつか認められる。



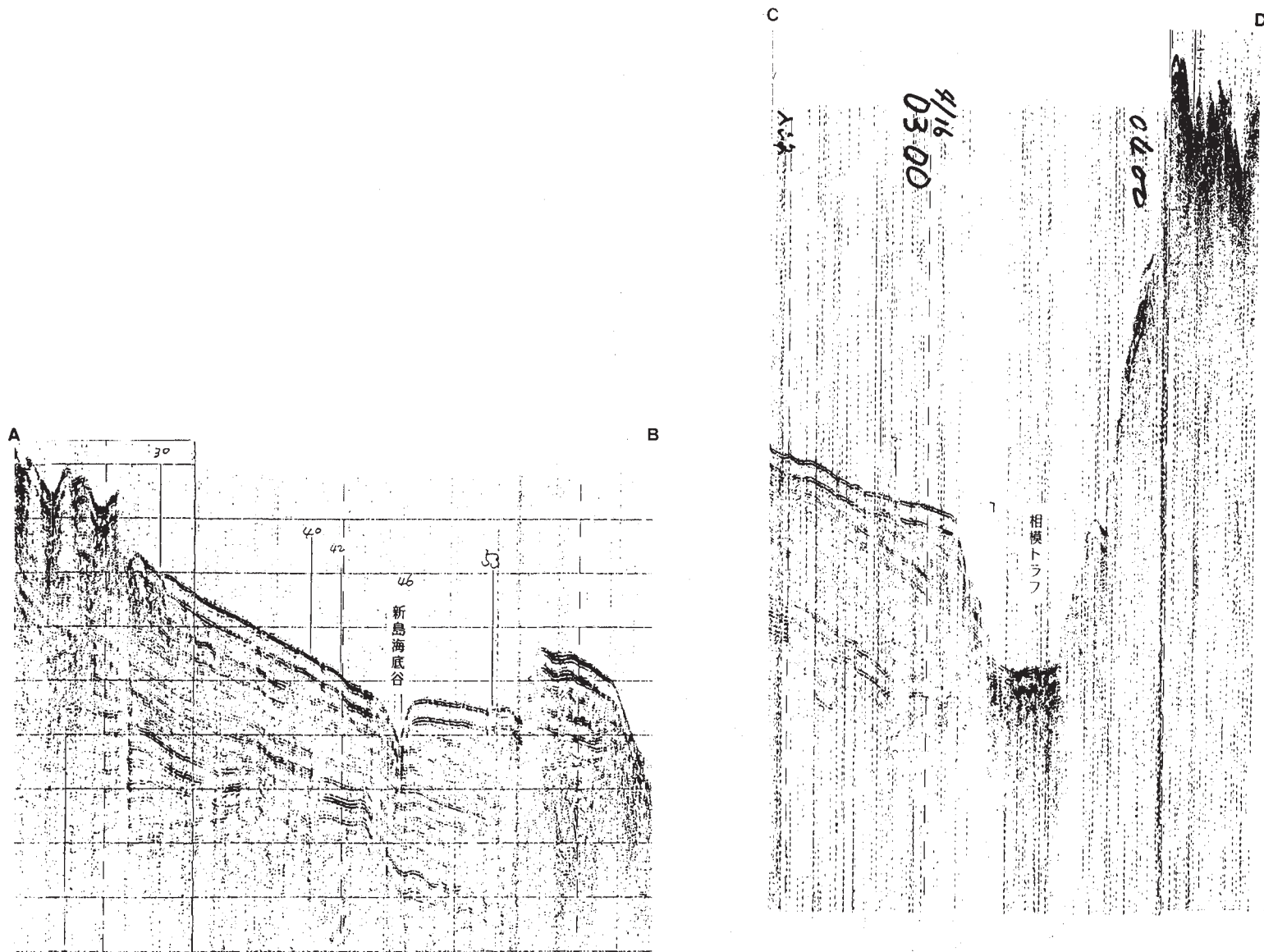
第1図 調査海域 (海底地形図No. 6313による)

Fig. 1 Surveied area on the bathymetric chart No. 6313.



第2図 相模トラフ中部の海底地形・地質構造, 等深線間隔 10 m

Fig. 2 Submarine topography and geological structure in the central part of Sagami Trough. Contour interval 10 m.



第3図 相模トラフ中部のシングルチャンネル音波探査断面，位置は第2図に示す
 Fig. 3 Single channel seismic sections in the central part of Sagami Trough. Location are shown in Fig. 2.